

広報ちゅうざん

10月号 平成22年10月1日



もくじ

リハビリテーション医療の進歩の楽しみ

二ページ

ちゅうざん病院、通所リハビリテーションとは

三ページ

インフルエンザ

四ページ

いももちレシピ

五ページ

ちゅうざん祭りのお知らせ

平成二十二年八月入退院状況

六ページ

リハビリテーション医療の進歩の楽しみ

理事長・院長 今村 義典

わずか二、三〇年前には出来なかつたような内視鏡手術や血管内手術など、その他多くの画像診断機器など近年の科学の進歩に伴う医学の発展には、目を見張るものがあります。

リハビリ医療への応用にも、医療者ばかりでなく、患者さんにとつても夢を与えてくれるものがあります。

治療における様々な機器の発想は、医療者や患者さんによつて「このような物があると良いな」などと、以外に昔から考えられているものが多いのですが、実用化されるまでには、様々な分野の発見・発明や開発を待たなければなりませんでした。

大昔から人が鳥のように大空を飛べるようになりたいと夢を考へる人はたくさん居ました、琉球の「飛び安里」の羽ばたき飛行器から「ライト兄弟」のエンジン飛行機、現代の旅客機や宇宙ロケットの発達は、飛翔体としての外観の進歩より内面に組み込まれた見えない機器や材料等の進歩に負うことが大部分であります。

もしも、その部品の一つでも開発が遅れば完成できないものだと考えると時間と科学の進歩の重要性を考えざるを得ません。

近々、当院で採用を検討している障害者用のロボットスーツは、近い将来、両下肢麻痺の方の移動手段として車椅子に代わつて街中ばかりでなく山道も歩行できる楽しみの機器だと考えています。

また、更に一方では、機能的電気刺激装置(FES)や機能的磁気刺激装置(FMS)を利用して、麻痺した筋肉を直接刺激して動かそうという画期的な機器が開発され間もなく医療現場に導入されようとしています。

簡単に装着することで、握る・書くなどの手指機能や起立・歩行などの下肢機能が可能となると、これらの機器を装着することでリハビリ訓練の方法も変わってくるかもしれません。

入院期間の短縮や社会参加・復職など早期に社会復帰が可能となることを考えますと、患者さんだけでなく、国も積極的に普及出来るように推奨してくるのでないかという印象を感じています。

いずれもマイクロコンピュータ等のコンピュータ技術の進歩や小型モーターの発明等によつて可能になったもので、益々これらの分野の進歩が、障害者の自立を助け、我が国の医療そのものを良い方向に変えていくことだろうと、大変興味のあることであります。

ちゅうざん病院、通所リハビリテーションとは、

通所リハビリテーション 看護師長 伊禮眞澄

ちゅうざん病院、通所リハビリテーションは、平成五年の老人デイケア開設から始まり十七年目に入ります。開設当初から、医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士の専門スタッフで行う評価委員会を開設展開し、利用者満足の評価を指してきました。私達ちゅうざん病院が目指す理念は、現在でも変わらず、障害のある利用者が、通いながら安全で自立した生活を取り戻し、安定した家庭環境・リハビリテーション・社会的活動・介護者支援・社会サービスの紹介をチームで提供します。現在目標として取り組んでいる受持ち制の導入(個々に合ったリハビリ)とチーム性、安全管理をもつて業務展開しています。介護保険法に基づき要介護状態にある利用者に対し適正なりハビリテーションを提供、総合的・効果的な支援を目的とします。専門職Ⅱ介護福祉士Ⅱ(十名)介護士(九名)看護師Ⅱ(二名)准看護師(一名)理学療法士Ⅱ(二名)作業療法士Ⅱ(一名)健康管理を行う医師Ⅱ(六名)とスタッフも充実しています。*サービス内容として、看護師が健康管理、全身把握します

食事・管理栄養士が利用者の身体状況をアセスメントした食事を提供します。機能訓練(リハビリ計画)・身体機能の維持、向上を目的に利用者に適したプログラムを理学療法士、作業療法士が作成、実施、評価します。介護・経験豊かな介護職員が利用者の残存機能を引き出す介護を提供します。集団訓練・他者との交流で、楽しく参加できるレクリエーション実施により活性化、意欲向上を図ります。趣味教養活動・手工芸(ビーズ、エコクラフト)生け花等で利用者のニーズに沿った内容の生きがい活動を支援します。季節年中行事・誕生会、敬老会、クリスマス会、作品展示会、保育園児との交流会、地域ボランティアとの交流、又屋外活動を通して季節感を積極的に促し、利用者相互の交流や親睦を深めていきます。(参拝、花見ツアー、野球観戦、買い物ツアー等)今後もちゅうざん病院通所リハビリテーションは、利用者ニーズを第一としたリハビリを支援し、また地域活動の取り組みもより充実していこうと思います。

*介護保険に関するお問い合わせ、利用希望の方は介護専門員又は、当事業所でも相談受付しております。

インフルエンザ

感染対策委員 三浦敦子

徐々に秋めいてきた沖縄ですが、これからインフルエンザが流行する季節に入りますね。インフルエンザ感染から身を守り、健康に生活して頂くため今回はインフルエンザの症状・感染経路・感染対策についてお話させて頂きます。

まず、インフルエンザの初発症状は発熱・悪寒・頭痛で主な症状は、3〜4日持続する38.5度の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛など全身症状が強いのが特徴です。また、感染性が非常に強く、あつという間に人から人へ移り、広範囲で流行することや、症状が重症化しやすいことなどからも予防対策と発生した後の対応が重要です。

次に、インフルエンザの感染様式には、咳・くしゃみと共に放出されたウイルスを吸い込むことで感染する飛沫(ひまつ)感染と、ウイルスが付着したものを触れた後に目・鼻・口などに触れることで、粘膜・結膜などを通して感染する接触感染があります。インフルエンザウイルスはとても小さく軽いので、咳・くしゃみなどをすると1メートル以上飛んでほかの人へ感染していきます。ですので、咳・くしゃみをする時はティッシュで口や鼻を押さえることや、マスクをする

ことが大切です。

最後にインフルエンザ感染対策の心得として、手軽に行える「手洗い・うがい」など衛生習慣を徹底して下さい。手洗いは二つの観点からインフルエンザの感染防止に特に重要です。自分が感染していない場合は手洗いによって、手指を介する接触感染を防ぐことができず。自分が感染発症している場合は、汚染された手指を介する周囲環境への汚染を抑えて、接触感染によって周りの人に広がるのを防ぐことができます。

一番の対策はインフルエンザワクチンを接種して免疫力をつけておくことです。昨年は新型インフルエンザの流行で入手可能なワクチンに限りがあり予防接種を受けられなかった人が多いと思います。今年度は、昨年のようなワクチン不足はないかと思しますので、積極的に予防接種を受けるようにし、インフルエンザから自分自身や、大切な家族などを守りましょう。

いももち

おもちのようなジャガ芋おやつ

実質調理時間：10分 エネルギー：1人分 45kcal 塩
分：0.2グラム



材料

ジャガ芋 80g

片栗粉 大さじ1

塩 少々

バター 少々

作り方

1. ジャガ芋は皮をむいて乱切りにして深めの容器に入れ、水大さじ2を加えて、ラップをかけて電子レンジで3分加熱する。
2. 1のジャガ芋をつぶして片栗粉と塩を混ぜ込み、手で丸める。
3. 中火で熱したフライパンにバターを溶かし、2を入れる。焦げ目がつくまで両面を焼く。

ポイント

おもちでないのおもちのようになるのは、片栗粉の働き。ゆでたジャガ芋を和風で食べられます。

ちゅうざん祭り お知らせ

十月三十一日にちゅうざん祭りを行うことが決まりました。

午後2時～

通所リハビリステーションにて

舞台や催し

1階訓練室にて

リハビリ用具などの展示会

中庭にて

バザーや出店を予定しています。

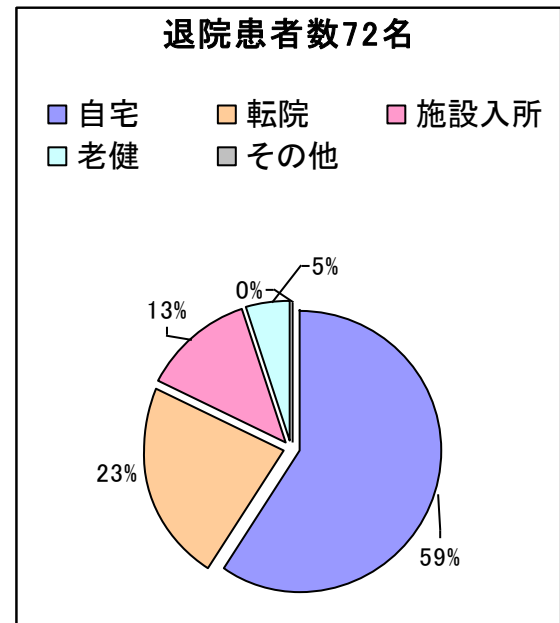
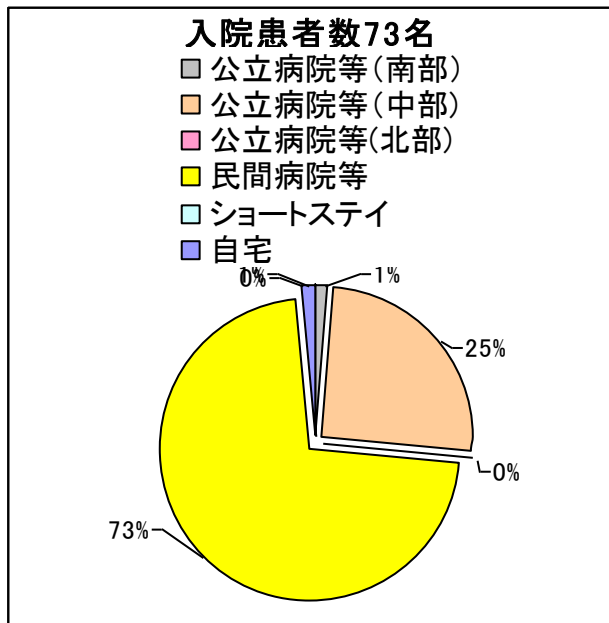
午後3時～

各階や正面玄関にてちゅうざん職員によるエイサー
があります。

ぜひお越しください。



平成22年8月 入退院状況



ちゅうざん病院 〒904-2151 沖縄市松本6丁目2番地1号
電話:982-1346 FAX:982-1347 「広報ちゅうざん」